

## 腎機能低下の傾向と今後の展開

◎杉山 凜花<sup>1)</sup>、長嶋 真吏<sup>2)</sup>、小山 安里<sup>1)</sup>、村松 典子<sup>1)</sup>、片瀬 史朗<sup>1)</sup>、赤堀 恵理子<sup>1)</sup>、平野 亜希子<sup>1)</sup>、小長井 誠<sup>1)</sup>  
聖隷健康サポートセンター Shizuoka<sup>1)</sup>、聖隷予防検診センター<sup>2)</sup>

### 【はじめに】

当保健事業部では慢性腎臓病の評価に活用される推算糸球体濾過量（以下 eGFR）を 2009 年度に導入した。今回は eGFR を用いて腎機能低下を早期に予測し、今後の生活指導への貢献を目的とし検討を行った。

### 【対象】

2014 年度から 2020 年度に当センターで人間ドックを受診した 109,504 件

### 【方法】

年代および性別ごとに尿蛋白(-)の eGFR を対照とし、高値基準範囲外の 7 項目（尿蛋白・尿潜血・血圧・尿酸・LDL コレステロール・空腹時血糖・HbA1c）の eGFR について t 検定を用いて比較した。

### 【結果】

尿蛋白(+)以上では男性が全ての年代で eGFR の有意差がみられ、女性は 40 代以上で有意差がみられた。尿蛋白(±)では男性は 30 代、40 代、50 代で有意差がみられ、女性は有意差がみられなかった。尿酸は男女ともに 30 代以上で

有意差がみられた。尿潜血、LDL コレステロール、空腹時血糖、HbA1c では一部の年代で有意差を認めた。

### 【考察・まとめ】

尿蛋白(+)以上、尿酸高値においてそれぞれで有意差がみられたことから、尿蛋白(+)以上、尿酸高値では腎機能低下のリスクが考えられる。

尿蛋白(±)においては女性では有意差がみられなかったが、早期発見のために尿蛋白(±)かつ尿酸高値の場合は腎機能に注意が必要であると考えられる。

### 【今後の課題】

尿蛋白定量検査の提案を含めた腎機能低下の早期介入及び追加検査の提案を行う。生活習慣や栄養指導に情報を発信できるように、食生活、飲酒、喫煙、BMI との関係を含めて調査する。

その他の項目について、異常値の程度による分類毎に eGFR を比較し、早期介入に繋がる情報が得られるか調査する。

連絡先 054-280-6211(内線：9417)